

7月12日（金）^{かぞ}数える

みな
皆さんは、^{さんすう}算数で^{すうじ}数字を^{べんきょう}勉強しました。その^{すうじ}数字を使って、^{つか}数えたり^{かぞ}書いたりしています。



では、^{すうじ}数字がなかったときにはどうやって^{かぞ}数えたのでしょうか。それは^{ゆび}指です。

^{いち}一から^い五までは^{かたて}片手で^{かぞ}数えることができます。

ますね。^{りょうて}両手を使えば、^{つか}十までは^{かぞ}数えられます。^{あし}足の^{ゆび}指を使えば、^{にじゅう}二十までは^{かぞ}数えられそうです。^{にじゅう}二十よりも^{おお}大きな^{かず}数の^{とき}時にはどうしたか。^{にんげん}人間^{ひとり}ひとりを「^{にじゅう}二十」と^{かんが}考えました。

^{たと}例えば、^{にじゅうに}二十二だったら、「^{ひとり}一人と^{ゆびにほん}指二本で^{にじゅうに}二十二」です。

しかし、^{あし}足の^{ゆび}指まで使って数えるのは^{めんどう}面倒だということで、^{すうじ}数字が^う生まれました。^{なが}長い^{ねんげつ}年月をかけて、^う生まれてきた^{すうじ}数字があるのです。それが^{すうじ}ローマ数字です。

3は「^{ほん}Ⅲ」、^{ゆび}三本の指です。5は「^てV」^{かたち}手のひらの形です。
十は「^{かさ}X」、これは^{かたち}V（5）を重ねた形です。

このようにして、^{すうじ}数字が生まれてきましたが、この^{とき}時には^{はっけん}0が発見されていません。^{つか}0が使えるようになると、^{かず}数の^か書き方が^{かた}大きく^{おお}変わっていきます。

村越 新